

農林水産業での顕著な功績を表彰する農林水産祭で、豊田市旭地区の「一般社団法人押井営農組合」は鈴木辰吉代表が上位3賞の日本農林漁業振興会会長賞を受賞することが11日決まった。市内では初の受賞だ。表彰式は来月23日に東京の明治神宮会館で開催する式典で行われる。

農林水産祭では、農林水産大臣賞の受賞者の中からとりわけ優秀な者に「天皇杯」「内閣総理大臣賞」「日本農林水産業振興会会長賞」の3賞を贈っている。7部門あるうち

豊田市旭 押井営農組合

全国トップ3表彰

閣総理大臣賞

「日本農林水産業振興会会長賞」の3賞を

贈っている。7部門あるうち

11 住み続けられるまちづくりを



先進的「自給家族」の取組が評価

一般社団法人化した。農業団体の法人化は農事組合法人が一般的だが、村を守る思いを共有する集まりであるため非営利の一般社団法人を選んだ。

と法人が借受ける手続きをとった。これにより農地所有者は働けるうちは農作業を続け、困難になった時には自動的に組合が経営権を取り戻す

流米ミネアサヒCSAプロジェクト」をスタート。「自給家族」の愛称で、持続可能な農や食に関心を持つ都市住民とつながって田んぼを守っていく。今回の受賞はそうした一連の取組みが評価されたものだ。なお自給家族の取組みは、下山地区の羽布町に広がり、一面に関連し、さらに今年11月からは押井を含む旭の敷島地区全体でも始まろうとしている。【新見克也】

押井営農組合は「むらづくり部門」での受賞だ。

令和元年には集落全体の合意で大胆な「地域まるっと中間管理方式」をスタート。集落内の全農地を農地中間管理機構に貸付け、それをまるごと

仕組みができあがって、農地荒廃の心配がなくなった。この仕組みを基に、押井営農組合は全国の山村集落を消滅の危機から救うモデル「源

らに今年11月からは押井を含む旭の敷島地区全体でも始まろうとしている。【新見克也】

押井営農組合は集落の存続をかけて米作りに取り組む地域自治組織で、平成31年に一

機構に貸付け、それをまるごと

減の危機から救うモデル「源

らに今年11月からは押井を含む旭の敷島地区全体でも始まろうとしている。【新見克也】